



梅 櫻 所 録

錦 橋 堂
藏 板

上

~ 13
3721
11



門へ13
 3721
 巻1

六編 松録 梅御所櫻
 上巻



梅六

一

楚山ふ得らば璞も視る人無き瓦石も等しく勸善の意
 含み稗史も視る人無き反古も等しく併璞も磨けば光りの
 出ぬ草紙も讀ば悪を懲まの一助成べしと嚮ふ書肆乃需ふ
 應下箇様有りふと當推量し視ぬ玉敷の御所櫻梅松録
 を培て稗史の鉢植と做し多ふ其梅あり糸ど関巻視んと次
 篇を松との御評判も先ハ芳野と聞けり僕も鼻を高くし
 彼始皇帝の御狩の節大雨を凌ぎをひし松ありねど枝葉の茂り
 忽み大木の株ありと欲張て急げ廻り眼も廻れと廻り兼
 たる筆を操り菅公御宮参りの條下迄を誌しぬ

鶴亭秀賀題



毎公録六



是善郷の御近
 秋の月習
 昭る之の
 是善郷の御近



是善郷の別室梅殿
 八重梅御前

梅殿の腰元
 初鴈



秀賀作國貞画

此の巻のついでに、梅松録の巻末に、秀賀作の國貞画が描かれています。この画は、二名の女性が描かれています。一人は立姿で、大きな傘をさし、もう一人は座敷に座して、何かを手にしています。背景には、梅松録の巻末の文字が縦書きで記されています。

口中御薬 固齧散 大包代百銅 小包代三十二銅
 功一丸のり 一丸のり 一丸のり
 能一丸のり 一丸のり 一丸のり

精製白妙 世三銅
 清浄 一包代
 中へいづ入用おれ

寝小便大奇薬 一包代 三百銅
 女とも一包ひて治る

無病長壽 養生手引草 全二冊 京山翁著

美玉百人一首 中本形 全一冊

紅梅百人一首 半紙本 全一冊

離鶴筈湯壽 紅摺大本 京山翁著

女中用文王手箱 中本形

敵討白石嘯 全二冊 芳虎画録

伊賀越敵討物語 全二冊

源家武勇鑑 二編 秀賀校合

足利絹手染紫 二十編 金水作

